

財団の概要

(1) 設立及び目的

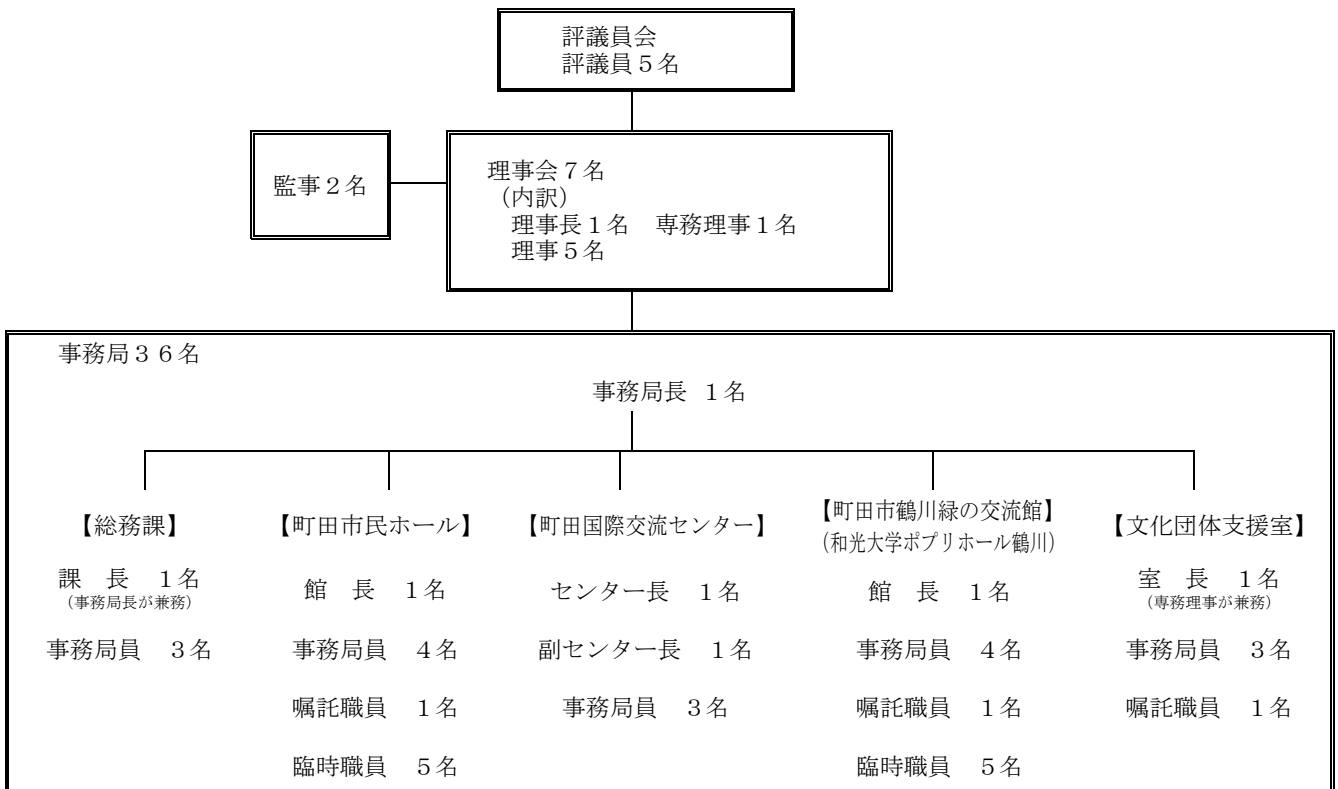
当財団は、従来から文化活動の場と機会を提供する町田市民ホールの事業運営を行っていた「町田市文化振興公社」と市民が国際交流活動の中心となって、主体的・創造的な活動を行っていた「町田国際協会」が統合され、「地域文化を創造し、その発展を図るとともに、市民活動充実のための支援、地域における国際交流活動の推進を図り、もって文化の香り高く国際感覚豊かなまちづくりに寄与する」ことを目的に、町田市により 2004 年 4 月、「財団法人町田市文化・国際交流財団」として設立されました。

その後、公益法人制度の改正に伴い、2011 年 4 月、「一般財団法人町田市文化・国際交流財団」として新たにスタートし、町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館（以下「和光大学ポプリホール鶴川」という）と町田国際交流センターで主な活動を行っています。

指定管理業務では、2022 年 4 月から「町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館ホール等及び町田市立鶴川駅前図書館（図書館運営業務を除く。）」として、2027 年 3 月までの 5 年間、新たに両施設を一体で和光産業（株）と「町田市文化施設指定管理共同事業体」を組み、代表者として指定管理者の指定を受け現在に至っています。

(2) 基本財産 300 万円（町田市からの出捐金）

(3) 組織図 (2024 年 3 月 31 日現在)



事業報告

2023年5月には、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限が緩和され、市民の文化活動が徐々に活気を取り戻してきました。当財団も安心して安全にご利用いただける施設環境を整えるとともに、安定した財政運営を行えるよう努めてまいりました。

指定管理者としては、「町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館ホール等及び町田市立鶴川駅前図書館（図書館運営業務を除く。）」の指定管理受託の2年目が終わり、新たな価値を生み出しプレゼンスを向上させるよう、事業の創意工夫に取り組んでまいりました。

この一年間の状況を振り返ると、コロナ禍で一時中断した公演の鑑賞や国際交流の機会を市民の皆様が待望していたことを改めて実感しました。当財団の事業に対する高い需要を再認識し、市民団体の皆様の活動を支援するとともに、さらに市民の皆様の期待に応えることが、町田市の文化振興や国際交流の発展につながると実感できた一年でした。

◎ 芸術文化及び市民文化の向上に関する事業（第1号事業）

（1）文化活動の支援及び市民参加型事業

市内で活動している文化・芸術団体活動に関係している皆様もコロナ禍以前の活動にほぼ戻りつつあります。その結果計32事業を実施し、いずれの事業も例年になく多くの市民の皆様に参加していただき、盛況に終ることができました。

町田市民ホールでは、例年行われている「町田市民文化祭」「町田市郷土芸能まつり」「まちだ全国バレエコンクール」や「全国町田ピアノコンクール本選」などを開催するとともに、全国レベルの実力を有する町田市立鶴川第二小学校第二中学校の合同合唱演奏会などを支援し、多くの方にご覧いただく機会を提供することができました。

和光大学ポプリホール鶴川では、例年行っている「全国町田ピアノコンクール予選」「鶴川ショートムービーコンテスト」「新春文化の祭典 in 鶴川 2024」などを開催し、多くの方に御参加いただくことができました。特にホストタウン関連事業として町田市在住の石川梵監督作品のインドネシアを舞台とした「くじらびと」の上映に合わせ、インドネシア関連の物品販売や海洋プラスチック等による環境汚染問題啓発のアート作品の展示を行い大変好評を得ました。館内の展示スペースを活用し、絵画展、フラワーアレンジメント展示、ミニ美術館など各種のイベントを開催し例年とは違った事業を展開することで、多くの方々に楽しんでいただきました。また、交流スペースでは、鶴川地区協議会主催の「3水スマイルラウンジ」やインドネシアの民族音楽「チャルン」と舞踊「レンゲル」の催し物を行い、多数の方にご来場いただきました。町田市にゆかりのある方や市民演奏家にご出演いただく無料のサロンコンサートを6回開催し、いずれもアットホームな雰囲気の中、近隣の皆様に気軽に音楽へふれていただくことができました。

(2) 文化の提供事業

伝統芸能である狂言・落語、クラシックコンサート・ポピュラーコンサートなど、国内外の優れた文化事業を計 82 事業実施しました。

○主催事業

【町田市民ホール】

計 25 事業を実施しました。

4 年ぶりに開催した「山内恵介コンサートツアー2023 ～歌うところは万華鏡～」や「坂本冬美コンサート」など、人気のアーティストによるコンサートを実施し、お客様に大変好評を得ました。映画上映会では、猫をテーマとした「ねこ★ねこ映画上映会」のほかに、35mm フィルムの映写機を使用した映画上映会を実施し、懐かしい気分を味わっていただきました。

また、宝くじの補助金を活用した「宝くじおしゃべり音楽館～思い出のスクリーンミュージック～」は、通常より安い価格で、映画音楽の名曲の数々をオーケストラの演奏で提供するとともに、入場無料のNHK公開収録「東京落語会」では、瀧川鯉昇師匠や立川談笑師匠など当代一流の演者による話芸の「粋」をお楽しみいただきました。

レストランでは、ウクレレとフラダンスのコンサートを実施し、普段とは違った午後のひとときをお楽しみいただきました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

計 23 事業を実施しました。

人気声優をゲストに迎えた朗読劇「おとぎカンパニー」や有名演奏家 2 名による「宮田大 大萩康司デュオリサイタル」、人気 Youtube ピアニストの公演「ヒビキ piano」など初めての試みの事業を多数実施した他、「月亭方正 桂三四郎 二人会」では、ポプリホールでは珍しい上方落語の世界に触れていただくことができました。

また、市内の若手演奏家への支援として、市内在住の若手バストロンボーン奏者大関一成さんをゲストに迎えた「エマーノンブラスクインテット with 大関一成」の他、恒例となっている「水曜午後の音楽会」第 95 回では、市内出身・在住のテノール歌手である鳥尾匠海さんにご出演いただき、多くのお客様から好評をいただきました。定期的に行っている映画上映会では多彩なジャンルの映画を上映し、良質な作品を安価で観ていただく機会をお客様に提供しました。3 月には能登半島地震復興支援のために、チャリティ映画上映会として「ひとにぎりの塩」「一献の系譜」の 2 作品を上映し、経費を除いた売上金を全額被災地へ寄付するとともに、同日に交流スペースにて石川県物産展を開催し、被災地への支援につなげました。

○共催事業

【町田市民ホール】

計 18 事業を実施しました。

「杉山清貴 acoustic solo tour 2023」や「はやしべさとし 三十歳の旅立ち ～叙情歌

を道づれに～ 町田編」、「CRAZY KEN BAND World Tour 2023-2024」など、人気のアーティストによる公演を多数実施し、大変盛り上がりました。

また、会議室では、「若手真打発掘プロジェクト・まちだ」を開催し、若手落語家に活動の場を提供するとともに、お客様にはホールで実施する落語会とは違う雰囲気をお楽しみいただきました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

計 16 事業を実施しました。

プロのダンサーによる 10 日間のワークショップとホールでの発表公演を組み合わせた「パフォーマンスキッズトーキョー」では、舞台上で演じる体験をしていただいた子どもたちや鑑賞された保護者の皆様から非常に高い評価をいただきました。

NPO 法人鶴川落語会が定例的に主催する「柳家小はぜ勉強会」は 6 回開催し、すべて完売しました。ホールで実施する「鶴川落語会」では毎回異なる顔付けの魅力ある二人会等を 5 回開催し、常連のお客様をはじめ多くの方にお喜びいただきました。定期的に落語会を開催し積み重ねることで、市内の落語ファンの広がりが見られます。地域における伝統芸能への関心が高まっており、伝統芸能のワークショップとプロによるホール公演を組み合わせた「伝統芸能粋 唄語日和～うたかたびより～」は初開催にも関わらず、長唄、日本舞踊、我妻、落語の 4 つのワークショップすべてが満員となり、ホールで行ったプロの公演も多くの方にご来場をいただきました。特にお子様連れのお客様には大変好評をいただきました。

(3) 協力・受託事業

協力事業は計 20 事業を実施しました。

町田市民ホールでは、市役所と同時に開催した「まちカフェ」、町田フィルハーモニー交響楽団の「荒谷俊治メモリアルコンサート」、赤ちゃんと母親を対象とした「ベイビーシアターコンサート」などへの協力、和光大学ポプリホール鶴川では動物を描いた「ワイルドライフファインアート展」などへ協力を行いました。

特に、NPO 法人町田演劇鑑賞会が演劇に触れるための講座では、市民の方が身近に演劇を感じる機会を作ることができました。

受託事業としては計 5 事業実施しました。

町田市・町田茶道会共催による町田薬師池公園四季彩の杜西園での茶会の設営を受託し、当日はあいにく荒天でしたが、多くの方に参加していただきました。また、久しぶりの市庁舎アトリウムでの開催となった地産地 SHOW や、町田市民フォーラムで開催された(社福)町田市社会福祉協議会創立 65 周年記念式典では、コロナ禍に関係性を築いてきた市内演奏家が率いる“アンサンブルマグノリア”にご出演いただき、大変好評を得ました。

◎ 町田市が設置する文化施設等の管理運営に関する事業（第2号事業）

【町田市民ホール管理運営事業】

2023年度のホールの利用率は82.9%、会議室（5室）は51.6%、練習室は47.1%、ギャラリー（2室）は39.2%となりました。

施設アンケート調査については、満足77.3%、不満3.7%、未記入が19.1%となりました。満足理由としては、広さが丁度良い、対応が良い、臨機応変に対応してくれるなどのご意見があり、不満の理由としては、Wi-Fiが使えない、エレベーターの故障が多い、駐車場が欲しい、休館し改修工事をした意味がわからないなどでした。

今年度は、利用者人数、利用率ともにコロナ禍以前の利用状況に戻りつつあります。しかしながら、施設においては老朽化による不具合が発生しており、施設管理者としては、市とも協議しながら、利用者が安全・安心で尚且つ快適にご利用いただけるよう施設の管理運営に努めています。

【和光大学ポプリホール鶴川管理運営事業】

2023年度のホールの利用率は83.3%。諸室においては、多目的室は48.9%、練習室（2室）は64.8%、会議室（4室）は59.6%、エクササイズルームは67.9%となりました。施設利用者へのアンケートでは、施設満足度について97.0%のお客様に好意的な回答をいただきました。

設備面では、空調機の故障や、雨漏り、備品の劣化などが見受けられましたが、利用者に影響が出ないように迅速に対応し、安全・安心で尚且つ快適な施設の管理運営に努めています。雨漏り対策として笠木の修繕工事を行うとともに、自転車があふれかえり老朽化した2段式自転車ラックの危険性も指摘されていた駐輪場については、全面的な改修工事を行い新たに有料駐輪場として運用を開始しました。現状では、クレーム等もなく今までよりも利用しやすくなったとのお声をいただいています。

◎ 地域における国際交流活動の推進事業（第3号事業）

町田国際交流センターでは、7つのボランティア部会が中心となり国籍や民族などの異なる人々が互いの文化の違いを認め合い対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくという「多文化共生社会」の構築のために4分野の事業を企画しました。

地域文化の創造と国際交流の促進及びまちづくりの視点から、子ども教室や日本語教室、相談事業等の外国籍住民への支援事業や国際理解・国際交流事業を実施しました。

2024年4月1日現在、114か国9,195人（町田市の人口の約2.1%）の外国籍市民が町田市に居住しています。昨年同時期と比較すると、880人増加しており、国籍別では、中国3,215人（35%）、韓国1,035人（11%）、ベトナム955人（11%）フィリピン746人（8%）、インドネシア355人（4%）、その他2,889人（31%）となっています。

【分野別事業活動】

① 外国人支援事業

- ・日本語教室における対面8クラスの学習者総数は145人、支援者数は79人、オンライン（Zoom）による支援活動の学習者数は19人、支援者数は12人で、計329回の支援を行いました。
- ・子ども教室における対面の児童・生徒は37人、支援者数は30人、オンラインによる支援活動の児童は5人、支援者数は6人で、計47回の支援を行いました。その他、「子ども教室を卒業した仲間たちの会」、「芹が谷公園イベント」、「クッキー作りイベント」、「子ども教室研修会」、「就学前準備説明会」を開催し、全体で子ども・支援者・保護者159人の参加がありました。
- ・外国人相談部会では、電話やオンライン、対面による外国人のための生活相談等を週3回実施し、相談件数は248件ありました。
- ・その他、市内病院等への同行・電話・オンライン通訳104件、町田市等からの翻訳依頼は2件ありました。

② 国際理解・協力事業

- ・外国人支援と国際交流への貢献を目指し、あわせて異文化理解の一環として、5言語（英語、中国語、韓国語、スペイン語、タイ語）8サークルを5月から開講し、227人が受講しました。
- ・国際理解・協力部会による講演会「南アフリカの植物の魅力を探る」を6月に開催し、185人が来場しました。11月に開催した町田発国際ボランティア祭り「夢広場」は、25回記念として例年行っている各市民団体の「活動報告・民芸品販売の日」に加えて、「記念ステージの日」を2回開催し、24団体約600人の来場がありました。2月には、町田市生涯学習センターとの多文化共生共催事業「まちだ de トークプラザ～日本で働く外国人～」を開催し47人が参加しました。
- ・小中学校での総合教育の授業の一環として行われる国際理解教育支援のため、7か国の外国人講師11人を、町田市立南成瀬中学校、真光寺中学校、小山田小学校に派遣し、3校で合わせて455人の児童・生徒が参加しました。

③ 国際交流事業

- ・国際交流部会では、外国籍住民と「囲碁で遊ぶ国際交流」を実施し、外国人9人が参加しました。日本文化を体験するイベントでは町内会主催の「盆踊り大会」、秋の例大祭「子ども山車巡行」、町田市民文化祭「お茶会」に参加し、合わせて37人の外国籍の方が参加しました。外国人住民との交流イベントでは、「みかん狩りツアー」を実施し、35人の外国人が参加しました。また、留学生との交流を目的にホームビジットを実施し、留学生14人、ホストファミリー7家庭が相互の文化を理解し、尊重することを学ぶ機会となりました。

④ 情報提供及び連携事業

- ・町田市と町田まちづくり公社主催「まちだウィークエンドストリート」に、子ども向けの体験型ワークショップ「世界を知ってカードを作ろう！」を出店し、に 30 名の参加がありました。
- ・国際交流センターの事業を広く一般市民に理解してもらうとともに新規会員増を図るために、「オリエンテーション」を 2 回実施し、53 人が来場しました。
- ・国際交流センターの活動を広く PR するため、町田市役所イベントスタジオで 5 日間各部会活動のパネルを展示し 156 人の来場がありました。
- ・桜美林大学サービスラーニングセンターとの連携事業「プレスクール」（外国にルーツを持つ就学前児童への日本語学習オンライン支援）に大学生 6 人が参加し支援活動を行いました。
- ・連携事業では、F C 町田ゼルビアホームゲームの国際フレンドシップデーにブースを出店するとともに地域の外国人と試合観戦を行い、3 か国 29 人がボランティアとして参加しました。外国人支援活動の一環として「まちだ地域国際交流協会」と「町田日本語の会」と 3 者で日本語学習支援活動の方針等について話し合う場を持ちました。
- ・地域日本語コーディネーター事業では、各部会役員やボランティアの意識変革と各部会活動を横断的に共通土台の考え方に立つように促す多文化共生に向けて情報提供をしました。8 月に初めて日本語を勉強する外国人を対象に「はじめてのにほんごきょうしつ」、「日本語学習支援ボランティア基礎講座」、「つたわる わかる チラシ作成講座」、「やさしい日本語講座」を開講し、全体で 46 人が参加しました。また、ネットワークの推進では、多様な機関・団体と連携しイベントに参加しました。

◎その他この法人の目的を達成するために必要な事業（第 4 号事業）

【広報事業】

財団情報誌「コンサートガイドまちだ」を偶数月、町田国際交流センター活動報告誌「ぼろんていえ」を奇数月にそれぞれ発行するとともに、ホームページや SNS による情報発信を行いました。

JR 横浜線町田駅をはじめ市内 16 か所にある掲示板などに加えて、「ショッパー」「タウンニュース」「定年時代」等にコンサート情報を掲載するとともに、小田急線の車内中吊り広告と駅貼りを新たに開始するなど、市民に様々なメディアを通して情報発信を行いました。

また、財団のホームページをわかりやすく見やすく情報提供ができるように、2024 年 4 月の改訂に向け準備を進めました。

【チケットシステム】

2017 年 6 月から「かわせみオンラインチケットシステム」で導入しているインターネット予約によるコンビニエンスストア（セブン・イレブン）でのチケット受取りについては、2024 年 3 月末時点での会員登録者数は、24,065 名で、2023 年 3 月末と比較すると、4,998

名、1.26 倍の増加となりました。

【自主事業：レストラン・カフェ運営】

町田市民ホールにおいて「レストラン」の運営を行っています。町田市保健所管理栄養士との初コラボにより「2023 年度食生活改善普及運動月間・期間限定メニュー」を提供し、好評を博すとともにお客様の増に繋がりました。また、2024 年 1 月からレストラン委託事業者が変更になりましたが、新たなメニューの提供やスタッフのユニホームの変更なども行い、順調な運営となっています。営業日数は 329 日で、総客数 34,791 名の利用がありました。

また、和光大学ポプリホール鶴川では、「カフェ」の運営を行い、委託事業者の発案による焼きたてパンの販売を開始し、大変好評でした。営業日数は 339 日で、総客数 28,765 名の利用がありました。

【人材育成】

正職員及び臨時職員を対象とした財団独自の自己啓発費用補助制度を実施しました。職員自ら他館でのコンサートや落語などを鑑賞することによって、財団の公演や施設運営のあり方を考える機会となっています。

集合方式の研修会としては、2023 年 10 月から開始されたインボイス制度と 2024 年 1 月から適用となった電子帳簿保存法改正について外部講師（税理士・元国税専門官）を招き、具体的にどのような対応が必要になるかを学びました。また、当財団が町田市から受託している指定管理業務等を遂行する上で欠くことのできない個人情報保護について外部講師（弁護士）による研修会を開催し、最近の個人情報事故とその防止策などを学びました。来館者の安全管理面での研修としては、消防訓練の他、東京消防庁のご協力により共同事業体の構成員である和光産業（株）との合同で普通救命講習会を開催し、自動体外式除細動器（AED）の使用方法等を学ぶことで職員の対応能力向上を図りました。

外部の人材育成への協力としては、2022 年度は中止となっていた中学生の職場体験が再開したことにより、2024 年 1 月に市立南成瀬中学校の 2 年生 3 名を受け入れ、町田国際交流センターと和光大学ポプリホール鶴川で事業の補助作業を体験してもらいました。また、公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアムが行っているインターンシップ事業に協力し、2024 年 2 月から 3 月にかけて町田市民ホール・和光大学ポプリホール鶴川と町田国際交流センターで合わせて 9 名の大学生を受入れ、業務の補助を体験してもらいました。

【その他】

町田市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川、町田国際交流センターの共有スペースを活用した「パンフレットラック設置による民間事業者の情報提供」については、民間事業者の希望により町田市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川において契約を更新し、財源確保に努めました。また、町田市民ホール正面入口エントランスにシェアサイクルの駐輪場 5 台分を提供し、引き続き町田市の自転車対策に協力しました。